

(ケース 1)

わかりやすい教科書あり。膨大な数の学生を対象にする。知識やスキルを身につけさせたい。

- 「学習目標が達成できたかどうかを正確に評価する」ことだけに注力
- 教科書内容に準じたオンラインテスト問題を多数作成し、各学生に何度でも挑戦させる。
- オンラインだけで各学生の学習が完結するように、完全 e ラーニング化
→ 毎年 1000 人を対象とした「情報処理概論」の事例

(ケース 2)

複数の組織のそれぞれで同じ授業を開講。教科書もベツベツかも。でも質のバラつきは困る。

- コンピテンシー (何を学んで、何ができるようになって欲しいのか) を定義する
- コンピテンシーが正しく (多すぎず少なすぎず) 定義されていると、全員で同意する
- コンピテンシーに沿ったテストやレポートを課す (ちゃんと紐付ける)
- 講義の各回の学習目標を明確にし、それぞれが目標に達したかどうかを毎回小テスト
→ 4 大学 400 人を対象としたプロジェクト「減災リーダー養成」、科目「減災リテラシー」

(ケース 3)

ディスカッションボード (掲示板) を活用してみたい。どのように介入するのがいい?

- 各自が課題で扱うテーマを自由に設定し、教科書で学んだスキルを課題遂行プロセスで活用
- 課題に取り組んだ結果をそれぞれ掲示板に書き込み、コメントし合う
→ 教授システム学専攻の主要科目「インストラクショナル・デザイン I」

(ケース 4)

ICT 利用は、準備が大変だからイヤ。でも参加者の意見やアイデアをその場で集約したい。

- Facebook, Twitter, Instagram, LINE, Moodle から情報を取り込むツールの利用
→ LMS 上のツール「SharedPanel」

皆様にお願ひ：

「教え方を変える」ためにご自身がどのように ICT を利用しているかを 100 文字～200 文字程度で書いて、SharedPanel を使って共有してください。SharedPanel を使うには、

<http://sp.cica.jp>

にスマートフォン等でアクセスしてください。

(投稿者のお名前は、表示されませんのでご心配なく)



ディスカッションボード（掲示板）を
活用してみたい。

どのように介入するのがいい？

熊本大学

喜多敏博（平岡齊士）

科目の概要：インストラクショナルデザインI

開講年次： 1年前期（必修科目 単位数：2）
前提科目： なし
後続科目： インストラクショナル・デザインII、教育ビジネス経営論、eラーニング実践演習I、特別研究I

講義概要： 本専攻の柱であるID（インストラクショナル・デザイン）の基礎固めができるように、学ぶべき領域、主要な用語や概念、IDのプロセスについて学習します。IDのコンセプト、プロセス、主要な用語を用いて1時間程度の規模の教材・コンテンツを設計・開発・評価できることをめざす科目です。

-
- 1時間の独習教材作成 → 教授設計スキルを学ぶ
 - 全15回
 - フルeラーニング

科目の特徴

- 学習者同士による学習が基本（掲示板）
- 教員は全15回の授業のうちで3回しか関与しない
- 作成する課題のテーマは学習者自身が設定する
 - 自分が得意とするテーマで独学用教材を作成する
 - スキル修得が学習目標なので、テーマはなんでも良い。

1ブロック：教材を企画する

教材（3ブロックで実際に「1時間程度で学習できるプリント（紙）教材」を作成します。）や教材作りをイメージした上で、教材の責任範囲を明らかにし、教材企画書を作成します。

- 第1回：[独学を支援する教材をイメージする](#)
- 第2回：[教材の責任範囲を明らかにする](#)
- 第3回：[テストを作成する](#)
- 第4回：[教材企画書の作成](#)
- 第5回：[教材企画書に関する相互評価と改訂版作成](#)

2ブロック：教材パッケージを作成する

1ブロックで作成した教材企画書をもとに教材パッケージ（1時間程度で学習できるプリント（紙）教材）のサンプルを作成します。そのために、教材パッケージの作成のしかたについて学びます。

- 第6回：[教材の構造を見きわめる](#)
- 第7回：[学習を支援する作戦をたてる](#)
- 第8回：[教材の魅力を高める](#)
- 第9回：[教材パッケージを作成する](#)
- 第10回：[デザインレビュー資料に関する相互評価と改訂版作成](#)

3ブロック：教材を評価・改善する

2ブロックで作成したデザインレビュー資料をもとに、教材パッケージを完成させます。その後、教材パッケージに対する形成的評価を実施し、その結果を受けて教材を改善していきます。それらの評価と改善について教材作成報告書を作成します。

- 第11回：[形成的評価の準備をする](#)
- 第12回：[形成的評価を実施する](#)
- 第13回：[教材を改善する](#)
- 第14回：[eラーニング化を検討する](#)
- 第15回：[教材作成報告書に関する相互評価と改訂版作成](#)

1ブロック：教材を企画する

教材（3ブロックで実際に「1時間程度で学習できるプリント（※）」
かにし、教材企画書を作成します。

- 第1回：独学を支援する教材をイメージする
- 第2回：教材の責任範囲を明らかにする
- 第3回：テストを作成する
- 第4回：教材企画書の作成
- 第5回：教材企画書に関する相互評価と改善

課題1
教材企画書
前提テスト・事前テスト・事後テスト・アンケート

2ブロック：教材パッケージを作成する

1ブロックで作成した教材企画書をもとに教材パッケージ（1時間程度
教材パッケージの作成のしかたについて学びます。

- 第6回：教材の構造を見きわめる
- 第7回：学習を支援する作戦をたてる
- 第8回：教材の魅力を高める
- 第9回：教材パッケージを作成する
- 第10回：デザインレビュー資料に関する相互評価

課題2
課題分析図、指導法略表、教材サンプル

3ブロック：教材を評価・改善する

2ブロックで作成したデザインレビュー資料をもとに、教材パッ
の結果を受けて教材を改善していきます。それらの評価と改善に

- 第11回：形成的評価の準備をする
- 第12回：形成的評価を実施する
- 第13回：教材を改善する
- 第14回：eラーニング化を検討する
- 第15回：教材作成報告書に関する相互評価

課題3
形成的評価結果（観察プラン、経過時間観察用紙等）
課題1と課題2で作成したもの（改訂版）
教材本体（and 改訂版）
教材作成報告書

学習の流れ（第1ブロック）

1ブロック：教材を企画する

教材（3ブロックで実際に「1時間程度で学習できるプリント
す。）や教材作りをイメージした上で、教材の責任範囲を明らか
成します。

第1回：独学を支援する教材をイメージする

第2回：教材の責任範囲を明らかにする

第3回：テストを作成する

第4回：教材企画書の作成

第5回：教材企画書に関する相互評価と改訂版作成

掲示板

学習者による独学
&
学習者同士による
相互チェック

提出された「課題」を教員
がチェック。
合格 or 再提出の判定とアド
バイス

1ブロック：教材を企画する

教材（3ブロックで実際に「1時間程度で学習できるプリント（紙）教材」を作成します。か
かにし、教材企画書を作成します。

- 第1回：独学を支援する教材をイメージする
- 第2回：教材の責任範囲を明らかにする
- 第3回：テストを作成する
- 第4回：教材企画書の作成
- 第5回：教材企画書に関する相互評価と改訂版作成

学生の独習 & 学生同士の相互チェック

教員によるチェック

2ブロック：教材パッケージを作成する

1ブロックで作成した教材企画書をもとに教材パッケージ（1時間程度で学習できるプリント（紙）
教材パッケージの作成のしかたについて学びます。

- 第6回：教材の構造を見きわめる
- 第7回：学習を支援する作戦をたてる
- 第8回：教材の魅力を高める
- 第9回：教材パッケージを作成する
- 第10回：デザインレビュー資料に関する相互評価と改訂版作成

学生の独習 & 学生同士の相互チェック

教員によるチェック

3ブロック：教材を評価・改善する

2ブロックで作成したデザインレビュー資料をもとに、教材パッケージを完成させます。その後
の結果を受けて教材を改善していきます。それらの評価と改善について教材作成報告書を作成し

- 第11回：形成的評価の準備をする
- 第12回：形成的評価を実施する
- 第13回：教材を改善する
- 第14回：eラーニング化を検討する
- 第15回：教材作成報告書に関する相互評価と改訂版作成

学生の独習 & 学生同士の相互チェック

教員によるチェック

インストラクショナルデザイン I 課題1
教材企画書

- (1)タイトル : 広島風お好み焼きミニレクチャー
内容 : 多くの広島県民にとってソウルフードである広島風お好み焼き。焼き方や料金体系を知ることでもっと気軽に広島風お好み焼きを楽しんでもらうための講座。お好み焼きを通して広島に興味や親近感を持ってもらうことがねらい。
- (2)対象者集団 : 広島でお好み焼きが食べたいと思っている人
広島のお好み焼きについて知りたいと思っている人、興味を持った人
広島のお好み焼き店での注文のしかたがイマイチわからないと思っている人
※広島のお好み焼きについてよく知っている人は受ける必要なし
- (3)選択の理由 :
- [条件1] 自分がよく知っている内容/よくできることか
小さい頃から慣れ親しんできたお好み焼き。お店で食べるのも自分で作るのも好きだ。ただ、「おいしいお店はどこか」という問いに対しては知っている範囲でしか答えられない。教材の範囲には含めない予定。
- [条件2] 教材づくりの協力が得られるか
企画者は大阪と名古屋に住んでいた時期が長く、両地域に友人も多い。広島に遊びに来た際お好み焼き店に案内する機会も多いが、注文のしかたがよくわからないという人も少なくない。受講対象にあてはまる友人知人から協力が得られる状況である。ただ、彼らが教材完成までに広島風お好み焼きについて博学になる可能性がない訳ではない。その際は別の友人にあたる予定。
- [条件3] 1時間で学習できるか
内容は、広島の基本のお好み焼きと典型的な具材を知ること(焼き方含む:暗記なし)、料金体系を理解し注文のしかたをマスターすることにしぼり、1時間で収まる内容にする。
- [条件4] 個別学習教材で教材が「独り立ち」できるか
写真や図を用いて、広島風お好み焼きについて分かりやすく学べる教材とし、自学自習が可能である。イメージとしては、広島各地の観光案内所に置いてあるパンフレットや、広島観光案内のホームページからダウンロードできるようなものを描いている。
- (4)学習目標 :
- ① 広島の基本のお好み焼きと代表的なオプション具材が言える【言語情報】
 - ② 広島風お好み焼きの基本的な焼き方が説明できる【言語情報】
 - ③ 広島のお好み焼き店のメニュー体系を把握することができる【言語情報】
 - ④ セットになっている商品はもちろん、基本のお好み焼きにトッピングを追加する注文方法をマスターす

課題1の提出物の例

課題1 事後テスト

広島風お好み 全問正解であなたも広島お好み

- ①広島風のお好み焼きが関西風のお好み焼きとぜんぜん違うのは、次のうちどれでしょう。
- A.焼き方 B.味付け C.具材
- ②次のお好みソースのうち、実在しないのはどれでしょう。
- A.カープソース B.みやじまソース
C.広島じゃけんソース
- ③次の食材のうち、広島の基本のお好み焼きに入っている具材を選び、()に✓を入れましょう。
- () 紅しょうが () キャベツ () 長芋
() もやし () 牡蠣 () いか
() 豚肉 () 牛肉 () キムチ
() そば () たまご () チーズ

★⑧～⑩に

- お好み焼
- お好み焼
- お好み焼

[トッピング]
*イカ天1
*ねぎか1
*生イカ1

⑧一番安い
A.肉玉

⑨基本また
加えて注

提出課題

評定のために提出済み

評定済み

課題は 1 日 16 時間 遅く提出されました。

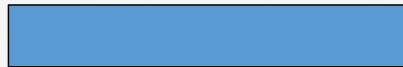
学生はこの提出を編集できません。



鈴木先生、平岡先生

トリオの 3 人目不在により、現在 [] さんと 2 人で進めております。

課題の提出が遅れましたがどうぞ宜しくお願いいたします。



ポートフォリオにエクスポートする

- 課題1-① 教材企画書 [] pdf
- 課題1-② 前提テスト [] pdf
- 課題1-③ 事前・事後テスト [] .pdf
- 課題1-④ 事後アンケート [] df


提出された課題へのアドバイス（平均1800字）

- 1) タイトルの説明文の最後に「お好み焼きを通して広島に興味や親近感を持ってもらうことがねらい」とありますが、学習目標には含まれていないようです。この教材での学習を通じて広島に関心や親近感を持ってもらうということならば、それを態度の学習目標として追加し、アンケートでその成果を確認することが考えられます。
- 2) 選択の理由の条件3にある「広島の基本のお好み焼きと典型的な具材を知ること（焼き方含む）」が「暗記なし」でよいならば、現在の学習目標1, 2, 3の内容は資料とし、それらの情報を参照しながら、お好み焼きのトッピングの選び方や注文の仕方をマスターする教材にすることも考えられます。言語情報の暗記の時間を節約し、その分を準備の練習に充てるということです。注文したいお好み焼きの内容によって、注文の仕方や価格が変わるとすれば、様々な条件の内容に対して適切に注文ができる練習が必要となるでしょう。最初は資料を参照しながら注文の仕方を考えて、練習するうちに資料の内容を憶えてしまうことも期待できるでしょう。
- 3) 学習目標4と5を「自分の注文希望」ではなく「想定した他人の注文希望」についてに修正することを勧めます。「自分の注文希望」は教材で学んだあとでやることにするが、その前に、応用できる準備を教材内でやっておく、という提案です。例えば「牛肉より豚肉を入れてほしい。麺はそばがいい。モチは好きだが、牡蠣はあたったことがあるので嫌だ。トッピングでタマゴを入れてほしい。ネギはいっぱいかけて。あーでも昼ごはんからあまり高いのは嫌だから1000円までで」などという他者からの注文希望に対して、メニューを見ながら適切な注文プランを提案できる、ということを目指すということです。
- 4) 学習目標4「セットになっている商品はもちろん、基本のお好み焼きにトッピングを追加する注文方法をマスターすることができる【知的技能】」を「注文したい内容に応じて、メニューを見て適切な注文内容を提案できる（知的技能）」としてはどうでしょうか。希望に応じた注文内容を提案するには学習目標1,2,3に含まれる情報が必要でしょうから、最初は必要な情報を参照しながら提案する練習をして、徐々に何も見ないでも適切な注文を提案できるようになることを目指すということです。事前事後テストでは、学習目標1,2,3の言語情報を学習目標として残すのであればその内容を問うテストを行い、あるいは暗記しなくても良いのであれば学習目標4, 5のテストだけを残して、学習目標1,2,3の言語情報は、アドバイス2)にあるように見ても良い参照資料として評価条件に加えるのがよさそうです。
- 5) 他者の注文希望ケースは、事前テストに用いたものを教材内の事例として使い、練習用に2ケース程度、そして最後の事後テスト用に1～2ケースを準備することになると思われます。想定した他者の注文希望ケースを用いずに「自分の注文希望」で教材内で練習をしてもらうと、提案できるようになったのかどうかを自分でチェックさせることが困難になります。それがたとえできたとしても、事後テストでは「他者の注文希望ケース2」（練習したものと異なるもの）を想定して行わないと知的技能のテストはできません。
- 6) 事前・事後テストは同じものを使用しているようです。言語情報のテストでは事前テストと事後テストは同一でよいですが、知的技能のテストでは事前テストと事後テストは同じレベルの異なる問題であることが必要です。知的技能は未知の事例に対してルールや法則などを適用できることが必要であるため、一度使った問題とは別の問題を出題することが必要です。例えば、事前テストと事後テストでは注文の希望ケースを変更し、メニューの内容も変更することで、未知のケースで知的技能が活用できることをチェックすることができます。

課題3の提出物

- ①-1 教材作成報告書.pdf 
- ①-2 教材企画書.pdf 
- ②-1,2 教材本体(前提テスト込).pdf 
- ②-3 事前テスト.pdf 
- ②-4 事後テスト.pdf 
- ②-4 事後テスト用メニュー.pdf 
- ②-5 アンケート用紙.pdf 
- ②-6,7 観察プランと経過時間観察用紙.pdf 
- ③ 形成的評価資料.pdf 
- ④ 教材本体 改訂版.pdf 

平岡先生、鈴木先生

ID-1では、きめ細かいフィードバックを頂き
本当にありがとうございました。
お好み焼きの教材を作成したです。

自分ではこれ以上できないというところまで考えたつもりでしたが、
最後のフィードバックにも参考になるものがたくさん書いてあり感動しまし
た。

特に発展学習への誘いの部分で、自分のおすすめのお好み焼き店を
1つ入れておくという部分はなるほどなぁと思いました。

先日改めて教材に手を入れたところですが、

本当はもっと早くご報告したかったのですが、
他のタスクや課題に精一杯で遅くなってしまいました。

1ブロック：教材を企画する

教材（3ブロックで実際に「1時間程度で学習できるプリント（紙）教材」を作成します。か
かにし、教材企画書を作成します。

- 第1回：独学を支援する教材をイメージする
- 第2回：教材の責任範囲を明らかにする
- 第3回：テストを作成する
- 第4回：教材企画書の作成
- 第5回：教材企画書に関する相互評価と改訂版作成

学生の独習 & 学生同士の相互チェック

教員によるチェック

2ブロック：教材パッケージを作成する

1ブロックで作成した教材企画書をもとに教材パッケージ（1時間程度で学習できるプリント（紙）
教材パッケージの作成のしかたについて学びます。

- 第6回：教材の構造を見きわめる
- 第7回：学習を支援する作戦をたてる
- 第8回：教材の魅力を高める
- 第9回：教材パッケージを作成する
- 第10回：デザインレビュー資料に関する相互評価と改訂版作成

学生の独習 & 学生同士の相互チェック

教員によるチェック

3ブロック：教材を評価・改善する

2ブロックで作成したデザインレビュー資料をもとに、教材パッケージを完成させます。その後
の結果を受けて教材を改善していきます。それらの評価と改善について教材作成報告書を作成し

- 第11回：形成的評価の準備をする
- 第12回：形成的評価を実施する
- 第13回：教材を改善する
- 第14回：eラーニング化を検討する
- 第15回：教材作成報告書に関する相互評価と改訂版作成

学生の独習 & 学生同士の相互チェック

教員によるチェック

効率と効果の観点から

- 効率

- 学習者ができることは学習者に任せ、教員は教員しかできないことに集中する → 使うべきところに集中的に力を使う
- 「効率化＝教員が楽になる」ではない
フィードバックは大変。一人分に1-2時間はかかる
1800字×課題3つ/1人

- 効果

- 各課題の評価は合格 or 再提出なので、時間切れにさえならなければ、誰でも学習目標を達成できる。
- もちろん、再提出された課題へのフィードバックは教員がやるので、それなりに大変。

学習者間のアイデア・学習リソースの
共有を支援する活動モジュールプラグイン

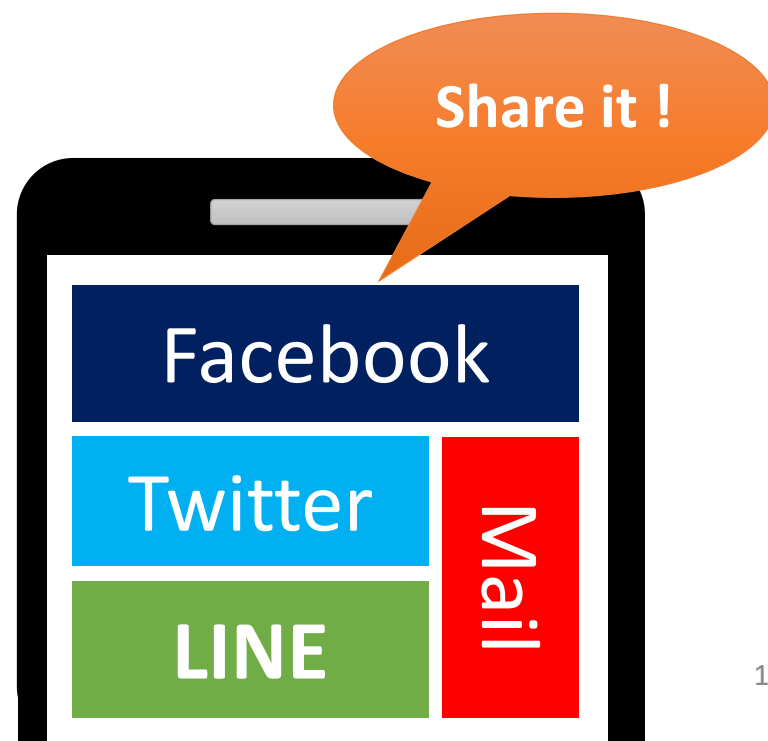
「SharedPanel」

熊本大学 教授システム学専攻

長岡千香子, 喜多敏博

Chikako Nagaoka, Toshihiro Kita

cnagaoka@kumamoto-u.ac.jp



SharedPanelの全体像



Facebook

共有したい情報を任意のFacebookグループへ投稿



Twitter

共有したい情報に任意のタグをつけて投稿



メール

共有したい情報を特定のメールアドレスへ件名をつけて送信



Evernote

共有したい情報に任意のタグをつけてノートとして保存・特定のメールアドレスへ送信



LINE

共有したい情報を特定のアカウントへ送信



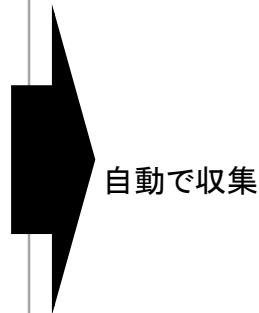
システムへ直接

共有したい情報をシステムへ直接入力。

Moodle (活動モジュール)

Home ▶ plugin_test ▶ 07/27 - 08/2 ▶ 教員免許状更新講習: SharedPanel画面

重要だね!の多い順でソート / 面白いね!の多い順でソート



自動で収集

<p>地域との連携を密にしていたので、避難所の運営の際にとてもスムーズに活動することができた。</p> <p>2016-08-26T10:51:09+09:00 from facebook</p> <p>重要だね <input type="checkbox"/> (10) 面白いね <input type="checkbox"/> (1)</p>	<p>4月当初のできごとだったので、安心メール登録が前年度からの移動の最中だったりしたので家庭への連絡が不安定だった。新学期すぐ受け付け開始、登録をした方がよかった。職員連絡網も同上。</p> <p>2016-08-26T10:58:03+09:00 from camera</p> <p>重要だね <input type="checkbox"/> (11) 面白いね <input type="checkbox"/> (1)</p>	<p>子供達の安否確認の方法をきちんとしとく必要があった。SNS等でクラスのグループを作成しておくなど</p> <p>2016-08-26T10:56:32+09:00 from facebook</p> <p>重要だね <input type="checkbox"/> (4) 面白いね <input type="checkbox"/> (1)</p>
<p>生活用水の確保。断水期間が長かったので、飲み水より、トイレの排水用の水に困った。毎日プールからバケツで運ぶことが大変だった。</p> <p>2016-08-26T10:53:52+09:00 from camera</p> <p>重要だね <input type="checkbox"/> (1) 面白いね <input type="checkbox"/> (2)</p>	<p>gp 避難所の確認 安否確認のための緊急連絡網の活用 食糧、水の確保</p> <p>2016-08-26T10:46:00+09:00 from email</p> <p>重要だね <input type="checkbox"/> (1) 面白いね <input type="checkbox"/> (0)</p>	<p>入学式から間もない1年生の連絡先等家庭環境の情報がそろわず、休校期間の安否確認に苦慮した。安心・安全メールへの登録を早めに行っておくべきだった。</p> <p>2016-08-26T10:49:31+09:00 from camera</p> <p>重要だね <input type="checkbox"/> (3) 面白いね <input type="checkbox"/> (0)</p>

投票/ノート機能

- Facebook**
共有したい情報を任意のFacebookグループへ投稿
- Twitter**
共有したい情報に任意のタグをつけて投稿
- メール**
共有したい情報を特定のメールアドレスへ件名をつけて送信
- Evernote**
共有したい情報に任意のタグをつけてノートとして保存・特定のメールアドレスへ送信
- システムへ直接**
共有したい情報をシステムへ直接入力。

自動で収集

Home ▶ plugin_test ▶ 07/27 - 08/2 ▶ 教員免許状更新講習
重要だね!の多い順でソート / 面白いね!の多い順でソート

投稿内容	重要だね!	面白いね!
地域との連携を密にしたので、避難所の運営の際にとてもスムーズに活動することができた。	(10)	(1)
4月当初のできごとだったので、安心メール登録が前年度からの移動の最中だったりしたので家庭への連絡が不安定だった。新学期すぐ受け付け開始、登録をした方がよかった。職員連絡網も同上。	(11)	(1)
生活用水の確保、断水期間が長かったので、飲み水より、トイレの排水用の水に困った。毎日プールからバケツで運ぶことが大変だった。	(1)	(2)

安心安全メールの登録を1年生には呼びかけていなかったもので、年度末の新入生保護者説明会の折に呼びかけておくべきだった。

2016-08-26T10:55:50+09:00
from camera

重要だね! (21)
面白いね! (1)

共有された各情報に対して、2軸(例: 重要だね/面白いね)で投票を行う。
* Moodleへのログインなどは不要

このシステムの強み

- **入力されたデータを長期的に保存することができる。**
例：facebookのグループで行った学習活動を保存しておきたい...
- **SNS連携しているので、FacebookやTwitter上のリソースを利用できる。**
例：授業と関連するSNS上のリソースをシェア・リツイートして、共有。
- **学習者は自分が最も利用しやすいツールを利用できる。**
例：ツールの利用方法について説明をしなくても、情報共有できる
- **匿名モードでの入力が可能なので、意見の共有などへのハードルがちょっと下がる。**
例：授業でわからなかった点について、掲示板よりは気軽に聞ける。

想定される利用事例

1. 特定のICTツールへ情報を収集

Facebook上で行ったディスカッションのデータを保存するために利用するなど

2. 講義やゼミのテーマと関連するニュースなどリソースを共有
日常生活の中でよく利用するツールで随時、共有をするなど

3. フィールドワーク中に写真やメモなどを記録する

共有したいものを見つけたら、スマホで写真撮影して共有。

4. 多様な参加者が参加する単発の講習などで利用する

年代などによって使いたいツールは多様化するので、好きなツールを選ぶことができる。

利用事例1:フィールドワークにおける情報の記録

大学の学部生向けの授業で、フィールドワークとして過去に災害が発生した場所を訪れ、スマートフォンを用いて撮影した写真・メモを共有。訪問後、**フィールドワーク中に記録したメモや写真**をもとにグループワークを行った。

イメージです。

天草フィールド演習 フィールドワーク時に気づいた点の投稿

chikako.0219



この地形は大雨が降ったとき、
〇〇や△ △が発生するらしい。
グループ3

Chikako Nagaoka



この橋を利用することで、〇〇
や△ △を運搬することができる。
グループ7

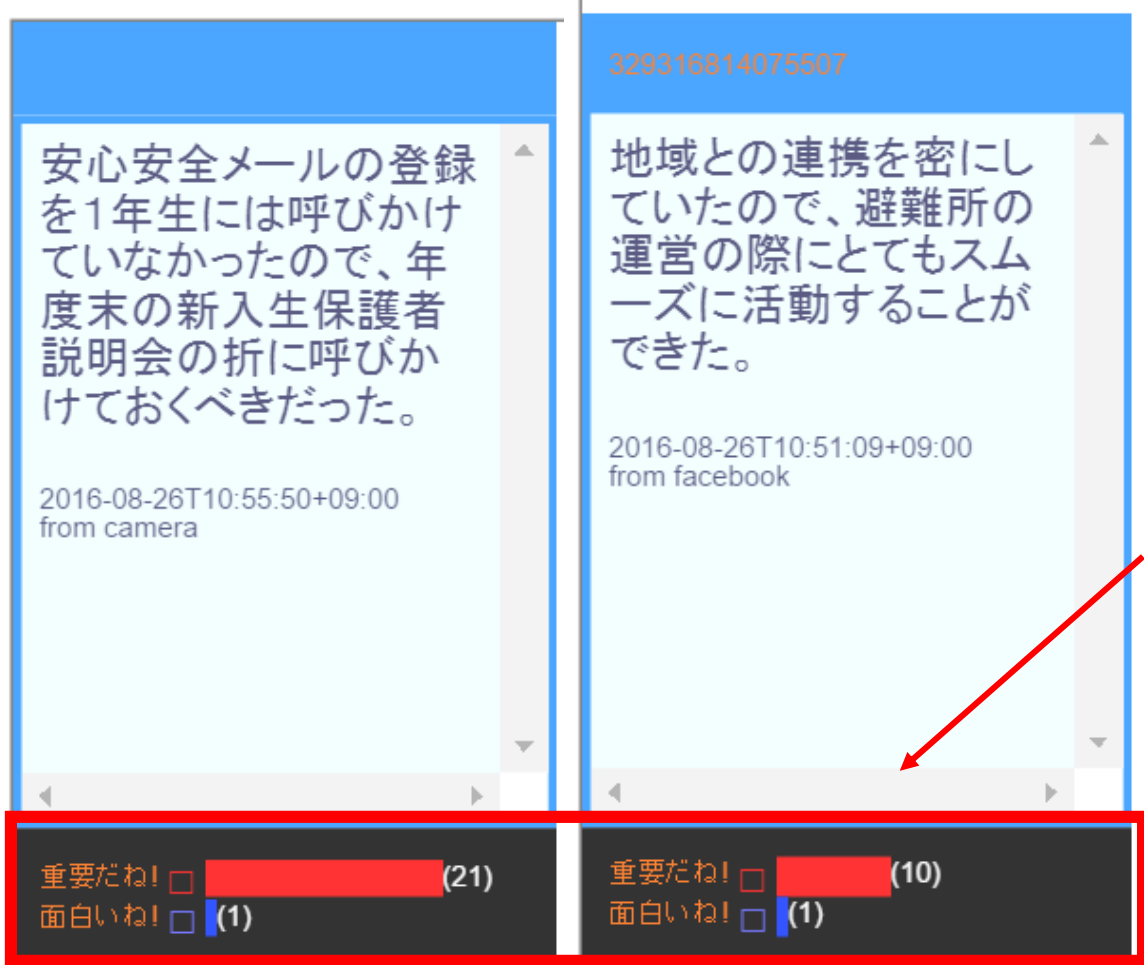
メールタイトル3
cnagaoka@kumamoto-u.ac.jp



この岩は〇〇の時に見つけた
岩らしい。
グループ7

利用事例2: 教員間における災害時の経験の共有

小中高の教員が防災について学習する教員免許状更新講習で、熊本地震が発生した際、**教員として「やっておいてよかったこと」、「やっておくべきだったこと」**を好きなツールを用いて投稿する。



共有された各参加者の経験に対して「重要」「面白い」の2軸で投票を行い、得票数が多かった参加者が全員の前でより具体的に説明する。

<今後の予定>

LTI (Learning Tools Interoperability) 対応版の開発

<公開情報>

Githubで公開しています。(Moodle Plugin Directoryは申請中...)

github.com/chikako0219/sharedpanel

まだ開発中のシステムですので、ご意見や連携してほしいサービスの提案、実践での活用等についてお声かけください。

アンケートへのご協力をお願いいたします。

<https://goo.gl/LzNf0h>